

1. 淀川区の防災活動 ―区役所と地域の取り組み―

阪神淡路大震災から 20 年、東日本大震災から 4 年が経過する中、全国各地で火山噴火などの自然災害が相次いでいます。

災害を防ぐことは出来ません。しかし「災害に対して正しい知識を持つこと」「日頃から備えておくこと」で被害を最小限に抑えることに確実に繋がります。

淀川区内の各地域では、趣向を凝らした様々な防災の取り組みが行われています。こちらで、区役所の取り組みと併せてご紹介します。

(1) 誰でもわかる地域ごとの防災マニュアル作成中 ～地区防災計画～

淀川区では平成 28 年度までに区内 18 地域で「地区防災計画」を作る予定にしています。地域がみずから作るこの地区防災計画は、災害に弱い場所・避難エリア・病院などの福祉施設・防災体制名簿・情報伝達方法など地域特性に応じた計画を明記したものです。

計画作成に向けては、数回のワークショップをおこないみんなで話し合って作り上げます。



(2) あなたの町の避難所を知ってますか？～訓練参加は防災の第一歩～

各地域には、指定の避難所・避難地が設定されています。あなたの家に一番近い避難所を知っていますか？そこまで実際に歩いたことがありますか？緊急時には、どういった判断でそこに避難しますか？

地震や津波等の災害に備えて、淀川区の各地域は『地域防災訓練』を毎年実施しています。いざというときに慌てないように、是非お住まいの地域の防災訓練に参加してください。

各地域の防災訓練の日程や場所については、[区役所ホームページ](#)で紹介していますのでご確認ください。



木川南小学校での防災訓練
(消火器の講習)



新北野中学校での防災訓練
(人工呼吸の講習)

(3) 災害に強い地域にするには ～防災の基本は自助・共助～

防災の基本はまず「自助」です。事前に緊急避難グッズや非常食を準備したり家具の転倒防止対策をしたり、住宅の耐震補強をするなど、いろいろなことができます。

自助が防災の基本と言われるのは、まずは自分を守ることにより家族や友人・隣人を助けにいくことができる「共助」のベースになるからです。「救助される人」でなく「救助する人」になること。それが自助の取り組みです。「救助する人」が多い地域は、防災に強い地域とも言えます。

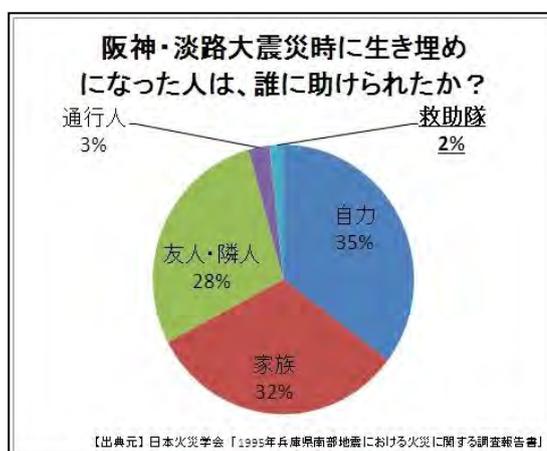
「共助」とは、自分や小さな共助である家族だけでなく、町内会や自治会などの小さな地域コミュニティ単位で防災としての助け合い体制を構築する、また災害発生時に実際に助け合うことを言います。

○阪神・淡路大震災のアンケートでは

先の東日本大震災や阪神・淡路大震災のような大災害では、実際どの程度救助が期待できるものなのでしょうか？

平成7年1月17日、阪神・淡路大震災が発生しました。後に、生き埋めになったものの助かった人たちにアンケートを取り、誰が助けてくれたかが明らかになりました。自助・共助で助かった人が98%にのぼり、救助隊（公助）はわずか2%にとどまっています。

このことは、「自助」「共助」が命を守るために最も重要であることを示しています。



(4) 淀川区に津波が来るってホントですか？ ～防災講座受付中～

区役所では地震・風水害対策の取り組みや被害想定、家庭で出来る対策などについて[防災講座](#)を行っています。内容は事前に調整しますが、概ね10人以上のグループから受け付けています。

また、幼稚園・保育所の幼児を対象に子ども向け防災講座も実施しています。

ご興味がありましたら、お気軽にお問合せいただきご利用ください。



介護事業者防災学会
グループワークでマップ作製中

◎ みなさんからのご意見・ご要望をお聞かせください！

地域防災力の向上をめざして、市民協働課（防災担当）は地域のみなさんと様々な取り組みを進めます。[災害時地域協力事業所](#)、[津波避難ビル](#)も随時募集しています。お問合せは、淀川区役所市民協働課（☎6308-9406 E-mail: tl0002@city.osaka.lg.jp）まで。